

地域に未来に多様なアーチを

Arch

岩手県立大学・広報誌[アーチ]

2025.03

86

Spring

短大で可能性を広げよう。

巻頭特集
短大進学の特典



岩手県立大学
Iwate Prefectural University



OB/OG Interview
NEXT INTERSECTION

災害対策×放送

株式会社IBC岩手放送 東京支社

宮本 大毅 さん

2016年 総合政策学部卒業



中学生の頃から憧れていたマスコミ業界で活躍する宮本さんは、元々は記者志望。2度目の東京勤務では、営業・デスク・記者を兼務しているため、時々記者として取材に出かけることもあるのだとか。休日はランニングをするなど、体を動かすことを心がけているそうです。

震災の経験から学んだことを伝えていく、放送を通して岩手のためにできることを

東日本大震災津波が起こったのは、高校2年生の春、母校の宮古高校で春季講座を受けていた私は、3階のベランダから津波が流れ込んでくる様子を見ていたことを鮮明に覚えています。こうした震災の経験は、その後の人生の大きな軸になりました。

大学時代は総合政策学部で学び、ゼミで地域課題の解決に関わる一方で、若者の復興支援活動をサポートする「いわてGIN GAINET」に参加。全国から集まる学生たちと協力して支援をしたり、被災された方々のコミュニケーションづくりや仮設住宅で子どもたちの遊びや学習支援を行ったりするなど、様々なボランティア活動に携わりました。大学での学びはもちろん、復興支援で出身も年代も立場も違う多くの人と出会ったことで視野が広がり、自分を客観視できるようになりましたね。

卒業後はIBC岩手放送に入社し、営業と報道記者を経験しましたが、特に思い入れが強く、大学での学びや経験を生かすことができたのが記者の仕事です。事故や事件の報道以外にも、震災の経験から「災害に備える重要性を伝えたい」という自分の思いを企画にし、色々な方々に取材を重ね、番組で発信できたことはとても意義のあることだったと思います。営業であっても記者であっても、放送を通じて県民の皆さんに貢献することが私たちの仕事。その時々自分の居場所から、少しでも岩手のためにできることを届けていきたいと思っています。



地域に未来に多様なアーチを

岩手県立大学
Iwate Prefectural University



〒020-0693 岩手県滝沢市菓子152-52 [URL] <https://www.iwate-pu.ac.jp>
[e-mail] management@ml.iwate-pu.ac.jp TEL.019-694-2000 FAX.019-694-2001
Copyright © 2025 Iwate Prefectural University. ALL RIGHT RESERVED. 発行:2025年3月31日

看護学部 | 社会福祉学部 | ソフトウェア情報学部 | 総合政策学部 | 盛岡短期大学部 | 宮古短期大学部 |
看護学研究科 | 社会福祉学研究科 | ソフトウェア情報学研究科 | 総合政策研究科





サークル活動① さんさ踊り

さんさ踊りにハマって地域文化に興味津々。
夏祭りや大学祭など人前で披露するのも楽しいです!

達成感もハンパ無い!



過替わりソフト
クリーム!

スキマ時間

授業のスキマ時間は、図書館で勉強したり、友だちとおしゃべりしたり、名物ソフトでリフレッシュも!



サークル活動② 軽音部

ライブが近づくとも昼休みも空きコマもひたすら練習。みんなで演奏をつくりあげると最高に楽しいね!

大学祭では大盛り上がり間違いなし!



NICE!



VOI-2 / 県大生の時間の有効活用が

CAMPUS TIME

キャンパスアテンダント
Presents!

CA



課外活動 キャンパスアテンダント

大学を広報するキャンパスアテンダントとして、様々な魅力を発信してます! 構内を案内するキャンパスツアーもやってるよ~。

空きコマを上手に使って
予習・復習も!



社会福祉学部 2 年の学生のとある週の前期時間割

	mon	tue	wed	thu	fri
8:50 - 10:20		英語 実践講習 III			
10:30 - 12:00		調査 技法	ソーシャル ワーク講習 II		高齢化 社会を 考える
13:00 - 14:30		生涯発達 とライフ コース	ソーシャル ワーク論 I	国際社会 福祉論	スキマ
14:40 - 16:10	福祉 工学	スキマ		統計学	社会福祉論 III
16:20 - 17:50	サークル	福祉 臨床医学	バイト	地域 福祉論	経済学

アルバイト 勉強になるよ!

バイトやってる学生
わりといます!

「ファブテラスいわて」で講師のアルバイト。子どもたちにもつくりを教える仕事は自分の学びになるね。



business

「様々な国の 文化や言語を学べる!」

盛短の国際文化学科では、興味を持った国の言語や文化を深く学ぶことができるので楽しいです!
FROM / 盛岡短期大学部・2年 / 工藤遥香



「活動的な人が めっちゃ多い!」

課外プロジェクトの企画運営を行っている人がたくさんいて、学内は学生主体のイベントで溢れています!
FROM / ソフトウェア情報学部・3年 / 福田陸晃



「緑豊かな 落ち着いたキャンパスは 勉強がはかどる!」

図書館や学部棟のラウンジは、静かで落ち着いた環境なので勉強に集中できます。窓から外の景色も見えるので、自然に癒されながら勉強に取り組んでいます!
CA / 盛岡短期大学部・1年 / 舩田夏帆



「サポートが手厚い!」

県大には入学準備アドバイザーや大学生生活アドバイザーがいたり、学生センターとソフトウェア情報学部には学習支援コーナーがあったりと、学生に対するサポートがとても手厚いです!
FROM / ソフトウェア情報学部・3年 / 福田伶央

「親身になって相談にのってくれるよ」

小規模な学校だからこそ、先生方が親身になって進路相談にのってくれます。先生方との距離が近く、仲良くなれるのも魅力です!
宮古短期大学部・2年 / 石山暉人

KENDAI CROSS POINT

滝沢・宮古キャンパスで学ぶ学生たちは、約2500名。彼らに「KENDAIの魅力を教えて!」と、直撃インタビュー。学生たちのリアルボイスをお届けします。

「大学祭ライブは 最高に盛り上がるよ!」

大学祭では毎年アーティストを呼んでいます。アーティストライブは最高にかっこよく、みんなで大いに盛り上がります!
CA / 社会福祉学部・3年 / 阿部佑月



「可能性を広げられる!」

経営と情報の両方の学びがあることで、将来の選択肢が増えました。やりたいこともたくさんできて、可能性を広げられる場です!
宮古短期大学部・2年 / 菅原沙耶



「ゼミ活動も 魅力的です!」

自分の興味のあることを仲間と研究できるのはとても楽しいです! いろんな研究をしている先生が揃っているのも、コースをまたいで様々な先生と話ができるのも貴重な体験です。
総合政策学部・4年 / 高橋秀佳



「サークルが 充実している!」

サークルの種類がたくさんあるので自分に合ったサークルがきっと見つかるよ!
CA / 総合政策学部・1年 / 佐々木涼太郎

「岩手県内の地域と 関わった活動ができます」

イベントやプロジェクトを企画する際に、滝沢市や他地域の方と共に創り上げることができます。学生を応援してくれる環境がありがたいですね。
看護学部・3年 / 榎本七海



「勉強もおしゃべりもできる スペースがいっぱい!」

建物の中にも外にも至る所に作業スペースがあるため、友だちとの会話はもちろん、1人の時間でも有意義に過ごすことができます!
盛岡短期大学部・2年 / 山本あかり



「学部、学年を超えて 幅広く交流できる!」

県大には他の学部の人や他の学年の人と関わる授業が多く、意見交換をしていくうちに色々な視点から物事を捉えられるようになります。
CA / ソフトウェア情報学部・1年 / 加賀春翔



「購買っていいよね」

購買では、学生生活に必要な物が手軽に購入できて便利です。閉店が近づくとも割引してくれるので、学生にはありがたい!
社会福祉学部・2年 / 千葉沙羅

四年制大学と 同じキャンパスを共有



四年制の岩手県立大学と同じキャンパスにあるため、図書館や体育施設、学生食堂など様々な施設・設備が充実。学びの面でも「単位互換制度」によって、岩手県立大学の各学部の授業科目を相互履修し、学問への興味・関心を広げることができます。また、サークルや学生活動、学内行事なども岩手県立大学と一緒に、幅広い課外活動が楽しめるほか、学部・学年を超えた学生同士の交流も活発に行われています。

少人数教育で 丁寧な指導が受けられる



盛岡短期大学には生活科学科と国際文化学科があり、各学科50人、各専攻25人の少人数教育が特徴です。そのため教員と学生の距離が近く、一人ひとりに寄り添ったきめ細かな指導が行っており、わからないことも気軽に質問でき、相談しやすい環境が整っています。また、学生が所属するゼミも、アットホームな雰囲気。卒業論文に向けた研究についても、丁寧な指導が行われています。

の4つの魅力

前身である岩手県立盛岡短期大学が1951年に開学して以来、70年以上の歴史を誇る岩手県立大学盛岡短期大学部。現在は、生活科学科と国際文化学科の2つの学科で構成され、それぞれの専門知識と技能、幅広い教養を身につけた卒業生たちが国内外で活躍しています。

将来に役立つ 様々な資格が取得できる



将来のキャリアに役立つ資格を取得できることも、大きなポイントです。生活科学科食物栄養学専攻では、所定の単位を修得すると、卒業と同時に「栄養士」の資格を取得できます。生活科学科生活デザイン専攻では、所定の単位修得で国家資格「二級建築士」の受験資格が得られるのに加え、色彩検定や建築CAD検定、インテリアコーディネーター資格試験、福祉住環境コーディネーター検定など、各種の検定試験に関する内容も学ぶことができます。

広く世界を学び 国際的視野を広げる



国際文化学科では、英語などの多言語の習得をはじめ、国際化や地域文化への考察を深める多彩なカリキュラムを用意しています。1年次には韓国かアメリカへの海外研修に参加することができます。こうした授業や研修、課外活動などを通して、多文化共生の意識を涵養し、地域のグローバル化に貢献できる人材を育てています。

短大の幅広い学びから 様々な将来への道が拓ける！

2年間で集中的に学びながら、幅広い教養と専門的な知識を身につけることができる短期大学。今号は、岩手県立大学盛岡短期大学部と岩手県立大学宮古短期大学部の2つの短期大学の魅力と、各地で活躍する卒業生たちをご紹介します。



2年間の密度の濃い学び

2年という限られた期間で、専門的な知識・技能に加えて、幅広い教養や社会人としての基礎知識を身につけられる短期大学は、学びの密度と時間の質が違います。忙しい日々ではありますが、それを乗り越えて早めに社会に出てキャリアを積み重ね、自己実現への近道になります。

経済的メリットが大きい

四年制大学や私立の短大と比べて、授業料が安く、経済的な負担が少ないのも、公立の短期大学のメリットです。さらに盛岡短期大学部、宮古短期大学部とも、寮費の安い学生寮を用意して日々の暮らしをサポート。慣れない土地でも寮生の友人がいて、食事などの心配もなく安心です。

短大進学の特典 メリットは？

教養教育が充実している

幅広い教養を身につけることは、物事に対する視野を広げ、感性を豊かにしてくれます。盛岡短期大学部、宮古短期大学部とも専門科目のほかに、それぞれの興味・関心に合わせた多様な教養科目を用意。さらに、デジタル社会に必要なデータサイエンス教育なども実施し、社会に出るための基礎知識を育みます。

多様な進路を選択できる

就職はもちろんのこと、興味を持った学びをさらに深めるため四年制大学への編入学や海外留学など、様々な進路を選ぶことができます。1年次の早い段階からのきめ細かな進路指導により、学生の希望をサポート。それぞれの将来の可能性を広げるきっかけを見つけることができます。

短大を卒業した先輩たちの声

岩手県立大学盛岡短期大学部と岩手県立大学宮古短期大学部で学び、社会で活躍する卒業生たち。それぞれの短大の魅力や現在の仕事に役立っていることなどを伺いました。



衣食住の幅広い学びが、設計を考えるベースに。

建築士を目指して盛岡短期大学部に進学し、現在は二級建築士として様々な家づくりを手がけています。盛岡短期大学部で学んだCADや製図の技術、プレゼンテーション力、衣食住に関する幅広い知識などは、今の仕事に大いに役立っています。まだまだ勉強中ですが、「菅野さんに任せたい」と信頼される設計士になることが目標です。

株式会社小原建設 **菅野 絢** さん

2018年3月 盛岡短期大学部 生活科学科生活デザイン専攻卒



私を認め、肯定してくれる多くのひととの出会いが財産。

高校まで狭い世界で生きてきた自分にとって、盛岡短期大学部で多様な考え方や生き方を認めてくれる学問や人に出会えたことは、とても大事な宝物です。現在はフリーライターをしていますが、お世話になった岩手の魅力を少しでも多くの人に伝えていきたいと思っています。

フリーライター・フォトグラファー **松浦 奈々** さん

2017年3月 盛岡短期大学部 国際文化学科卒

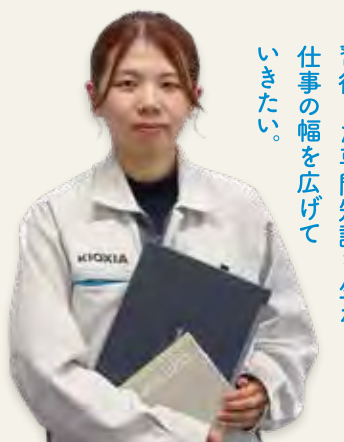


短大で得た学びと人脈が仕事の支えになっています。

卒業後、栄養教諭となり、今は給食を担当しながら、小・中学生に食に関する指導をしています。その土台をつくってくれたのは盛岡短期大学部で学んだ2年間。忙しい日々だったからこそ、集中して学ぶことができました。今でも先生方と繋がりがあり、短大在学中から培ってきた人脈に助けられています。

奥州市立江刺第一中学校 (奥州市立江刺学校給食センター兼務) **和賀 裕美** さん

2001年3月 盛岡短期大学部 生活科学科食物栄養学専攻卒

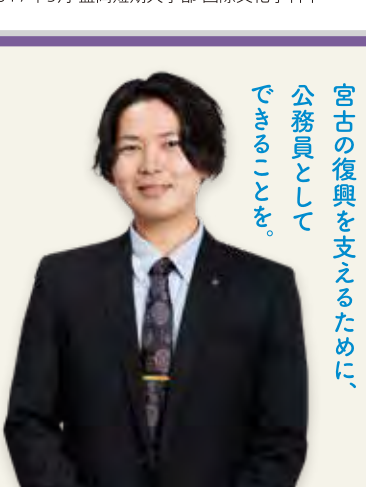


習得した専門知識を生かし、仕事の幅を広げたい。

宮古短期大学部時代は、会計の専門知識をはじめ、疑問点を自分で調べ、考える思考力を身につけ、アルバイトではコミュニケーション力を磨きました。現在は、半導体製造会社の経理業務を担当。自身で考え判断すべきことも増えており、今後は勉強をさらに重ね、オールマイティに経理ができるようになりたいです。

キオクシア岩手株式会社 経理部経理担当 **照井 陽香** さん

2019年3月 宮古短期大学部 経営情報学科卒



宮古の復興を支えるために、公務員としてできることを。

故郷の復興を支えたいという思いから、宮古短期大学部に進学し、市職員になりました。異動も多くの様々な職務を経験しますが、短大時代に学んだ経営や会計などの知識とスキルが仕事のベースになっています。公務員として住民の暮らしを支えながら、宮古をもっと盛り上げていきたいですね。

宮古市役所総務部 総務課 **村上 和希** さん

2018年3月 宮古短期大学部 経営情報学科卒



短大で学んだ知識とスキル、就職や仕事の大きな強みに。

営業事務の傍ら、社内システムの改善などに携わっていますが、宮古短期大学部で学んだパソコンの知識や簿記の資格が大いに役立っています。短大は、幅広く学びながら、自分の可能性を見つけられる場所。先生に相談しながら、自分らしい道を見つけることができました。

株式会社フイズマン 仙台福祉支店 **長山 結衣** さん

2020年3月 宮古短期大学部 経営情報学科卒

宮古短期大学部の魅力 / POINT 1

「三陸学」を通じて復興を体現できる



沿岸部に立地する特徴を生かし、三陸地域を題材として地域の課題解決を学ぶ「総合三陸学」を令和7年度から開設します。これは沿岸市町村の協力のもと、地域について学ぶ授業や現地でのフィールドワークなどを通して、地域の現状や課題を理解し、解決のための取り組みを総合的に学ぶことができる科目です。物事を多角的に捉える視座を養い、地域復興や防災の基盤づくりにつなげていきます。

宮古短期大学部の魅力 / POINT 2

経営戦略やチーム運営を構想できる



宮古短期大学部 経営情報学科では、就職や起業する際に必要となる知識や考え方を専門的に学べます。様々な企業の事例を通して議論を重ねることで、業界分析力、立案力、リーダーシップやチーム運営力を磨くことができ、予測されるリスクを回避する方法などを習得。社会人になる前にこうした知識を深めることにより、地域を牽引する人材に必要な能力を身につけることができます。



岩手県立大学
宮古短期大学部
Iwate Prefectural University, Miyako Junior College

の4つの魅力

宮古短期大学部の魅力 / POINT 3

データ・サイエンスを活用・駆使できる



「情報」を活用できる力は、これから必須の知識・スキルであり、数学やプログラミング、情報系資格を修得することは将来の強みになるもの。宮古短期大学部では、情報化社会を牽引する企業とDX、生成系AIなど、社会と情報の関係の変容や課題を学びます。具体的には、パソコンの操作方法から情報収集、分析、活用、そして開発に至るまで、基礎から四年制大学に編入学できるレベルにまで段階的に習得できます。

宮古短期大学部の魅力 / POINT 4

教職員と密なコミュニケーションができる



教職員との距離が近い宮古短期大学部は、授業や進路、学生生活のことなど気軽に相談できる環境があり、会話を通じてコミュニケーション力や社会人マナーを実践的に鍛えることができます。また、心理学から人間の行動や感情、経営関連科目から組織内コミュニケーション、情報関連科目から効率的な情報共有の方法を学ぶなど、様々な学問分野でコミュニケーションに関連する知識を深めることができます。

国際社会の貢献を掲げる本学では、2019年から「国連アカデミック・インパクト」に加盟。
大学のグローバル化や異文化間の相互理解など、さまざまな取り組みを進めています。

「世界の多様性を理解する海外研修」



人種も文化も異なる人々との出会いは 自身の価値観をも変える貴重な学びに

貧困、紛争、差別、環境破壊など、世界が抱えている様々な問題は、私たちと無関係ではありません。これらの問題は地域の課題と地続きであり、世界を知ることは地域を理解することにつながっています。こうした考えから岩手県立大学では、副専攻の一つとして「国際教養教育プログラム」を設置。世界の文化、社会、歴史などを学ぶ一方、より実践的な力を養うため語学力の習得や短期の海外研修などを実施しています。その中で国内外での異文化交流やフィールドワークを通して、グローバルな課題を実践的に学ぶ科目が「国際演習」です。

2023年度の研修先は、ドイツとの国境沿いにあるフランスのアルザス地方。ローマ帝国時代からドイツとフランスで領土を奪い合ってきた歴史があり、多くの苦難と犠牲を強いられてきた地域です。16日間の研修には、20名の学生が参加。岩手県と関係が深いCEEJA（アルザス欧州日本学研究所）のご支援のもと、現地学生との文化交流やEU議会の見学、強制収容所の見学など、様々な体験をしました。

参加した学生たちは、「敵国の文化も排除せず、自分たちの中に取り込んで育てていく包容力の大きさに触れ、多様性を尊重する大切さを学んだ」「積み重ねた歴史が今につながっていることを実感し、相手の国や人の背景を考え、理解することを意識するようになった」など、多くのことを学び、成長の糧にしています。後日、学生たちは、自分たちが知り得たことを多くの人に伝えたいと、アルザス研修の学びを大学祭で報告。異なる文化や価値観を理解し、共生していくことの重要性を発信しました。



国連アカデミック・インパクト(UNAI)とは？

国連アカデミック・インパクトは、各大学が社会貢献をしながら、国連と世界各国の教育機関の活動を連携させることを目的としたプログラムで、国内でも87機関が加盟（2024年1月現在）。岩手県立大学では、UNAIに関連する様々な取り組みが行われていることから、2019年5月に加盟しました。本学では「原則6：国際市民としての意識向上」「原則8：貧困問題への取組」「原則9：持続可能性(SDGs)の推進」「原則10：異文化間の対話や相互理解の促進」、以上の4つの原則に取り組んでおり、異文化理解のためのイベントやワークショップ、海外留学を活用した社会課題を解決する学習プログラム、海外の大学とのSDGsの課題に関する活動を実施。グローバル社会における各地域や国、世界における大学の社会的役割を追求していきたいと考えています。

本学の2023年の
国連アカデミック・インパクト
活動報告書はこちら⇒



今号のテーマ [正しさは脆い]

SNS上でしばしば話題になっている小学校算数の掛け算順序問題。「5個のリンゴがのったお皿が3枚あります。リンゴは全部で何個あるでしょう」。5×3が正解で、3×5はバツや減点になる流儀もあるようです。正しい答えはどのようなものなのでしょうか。そもそも「正しい」とは一体何を指すのでしょうか。



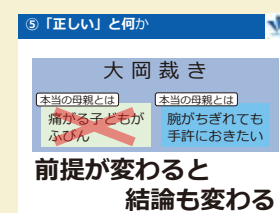
今号の先生
ソフトウェア情報学部
田村 篤史
准教授

先生の解説

名奉行・大岡越前の話に、子どもの親権を争う2人の母親が登場します。どちらが本物かを見定めるため、大岡は2人の母親にその子の腕を引っ張り合わせ、子どもが痛がる様子を見て先に手を離れた母親を本物と認めました。「(A) 本当の親なら子どもが痛がる行為を続けられるわけがない」というのが大岡の前提ですが、「(B) どんなに痛がっても決して腕を離さない親こそ本物」という考え方もあるはず。さて、あなたなら(A)、(B)のどちらの前提を選択しますか？

物事を判断するとき、その基準となる「前提」は人によって変わることがあります。一般的に前提が変わると結論も変わります。大岡裁きの例でいうと、(A)を前提としたときに母親と認定された女性は、(B)を前提とすると母親だと認められない可能性が高いです。実社会の場合、どの前提を選択するのは、その人の価値観に委ねられることもあります。また、世論の影響を受けることもあるでしょう。つまり、「正しさ」とは絶対的なものではなく、とても脆いものなのです。この世に絶対的な「正しさ」はありません。あくまで、ある前提に立脚したとき、その体系の中で、その「正しさ」が保証されるのです。

では、少しでも正しく判断するためには、どうすると良いのでしょうか。まず大切なのは、「論理的思考」を身につけることです。数学が得意な生徒は、常に「どこでどの根拠を使っているのか」を考え、自分の答えの裏付けを取ろうとします。一方、数学が不得手な生徒は、直観に頼る傾向があり、根拠が不明確であることが少なくありません。最初は難しくても、「根拠を意識する＝論理的に考える」姿勢・習慣を身につけると、正しい答えを導き出すことができるようになります。今、世の中には真偽もわからない雑多な情報があふれ、詐欺なども横行していますが、そうした情報や話をうのみにしてはいけません。それが信用に値するものなのか、しっかりと根拠を調べ、裏付けを取る。その上で、正しい判断をしてほしいと思います。



学生×防災



DATA

岩手県立大学防災復興支援センター 学生団体FROM(フロム)

2024年4月、地域防災活動に取り組む学生団体として結成。名称は学生たちが考え、『防災に関することをFROM「から」多くの人に伝え、その人たちが「から」より多くの人に伝えてほしい』という願いが込められている。メンバーは公募で集まった学生たちで、防災教育や防災訓練の運営支援、復興・防災に関する伝承・広報活動などを中心に活動している。毎週水曜日に定期ミーティングを開催。



「東日本大震災からの復興支援から「次の大災害への備え」へ。こうした地域ニーズの変化を受け、2023年に岩手県立大学は防災復興支援センターを設置し、その翌年に、防災に取り組む学生団体「FROM」を結成しました。メンバーは防災に高い関心を抱く学生たち20名で、その半数以上が防災士の資格取得者。学生ならではの視点を生かし、小・中・高校生への防災教育や地域で行われる避難訓練の運営支援などを行う一方で、自身の知識等を深めるため被災地等での現地学修なども行っています。「全学部の学生が揃っているのです、多様な発想や意見に触れることができますし、それぞれの思いや感じたことを発言し合える学びのコミュニティになっています」と話すのは、代表の福田睦晃さん（ソフトウェア情報学部3年）。県内では中高生の防災団体の活動も盛んになっており、彼らとの連携も想定しているというFROM。学内の防災に係る意識啓発に取り組みながら、さらに活動の幅を広げていこうと考えています。

学生ならではの視点を生かした活動で、
地域の防災意識を高めていきたい

学生×美容ケア



DATA

化粧ボランティアサークル KIPU*Labo(キプラボ)

化粧を通して地域の方々のいきいきとした生活のお手伝いをすることを目的に創設されたサークル。月1回のデイサービスへの訪問をはじめ、地域のイベントなどでハンドマッサージやネイルなどを行っている。部員は33名（2024年12月現在）。学部・性別を問わず、参加を希望する学生を募集中。申し込みはInstagramのDMから。→



アーチTVにて紹介中！



化粧ボランティアサークル「KIPU*Labo」は、メイクやハンドマッサージ、ネイルをしながら「コミュニケーションを図る、いきいきとした生活のお手伝いをする学生団体。美容を通じた地域貢献に関心を持つ社会福祉学部の学生たちが中心となり、高齢者施設や地域に出向き、美容ケアを提供しています。孫のような学生たちの訪問を心待ちにするお年寄りも多く、学生にとっては社会福祉の現場を体験できる貴重な機会。最初はうまく話せなかった学生も、経験を重ねることでコミュニケーション能力が身についていくと言います。「口数の少なかったお年寄りもマッサージをするうちに気持ちいがほぐれ、笑顔になってくれるのが嬉しいです」と、参加する学生も手ごたえを感じています。最近は子育て中の母親世代からもニーズがあり、活動の幅が広がっていると。もっとエリアを広げ、多くの人に癒しと笑顔を届けたいと考えています。

手の温もりで気持ちを解きほぐし
多くの人に癒しと笑顔の時間を



犯罪を繰り返してしまう人の再犯防止や社会復帰についての研究

社会福祉学部 人間福祉学科

紀司 かおり 講師

社会福祉学部
のサイト



奈良県出身。地元の高校を卒業後、心理学を学ぶためアメリカに留学。ケンタッキー州立大学を経て、カリフォルニア州立大学フレズノ校社会科学大学院修了（修士）。帰国後心理職として働いたのち、筑波大学大学院を修了（博士）。2022年岩手県立大学に着任。



「写真右：紀司講師のもとで犯罪心理学を学ぶ研究室の学生たち。写真下：研究成果を英文でまとめた著書『写真上：岩手暮らし3年目』。岩手はごはんが美味しいですね。特に魚介類」と紀司講師。パンが好きで、休みの日にはよくパン屋めぐりをしている。

「福祉の領域における犯罪心理の研究は、どうしても『支援する側』の視点で行われがちですが、私は『当事者』の視点に興味を持っています」と紀司講師。最近では、刑務所を出所しても万引きを繰り返す人たちを対象にインタビュー調査を実施。「犯罪行為に至る経緯を当事者の語りから紐解いていくと、過去のトラウマや依存といった背景が見えてくる」と言い、それを見つめ直すことで犯罪行為の原因やきっかけを内省し、再犯防止や支援につなげるプログラムも実践しています。

紀司講師の授業のひとつ「司法・犯罪心理学」は、社会福祉学部で取得可能な「公認心理師受験資格」の必須科目。「公認心理師を目指す学生の多くは子どもなどを対象とした支援に関心があり、犯罪者と聞くと、怖い、自分とは関わりがないと感じるかもしれませんが、でも、罪を犯す・犯さないは、実は紙一重。自分が支援に関わった子どもが将来、罪を犯してしまうこともあり得る。そういう自分ごと視点で犯罪心理学を学んでもらえたら」と話します。

看護学の各領域をつなぐ「シミュレーションプロジェクト」

看護学部

シミュレーションプロジェクトチーム

看護学部の
サイト



看護学部の各領域（基礎看護学、成人看護学、老年看護学、在宅看護学、看護情報学）の教員が連携して取り組むシミュレーション教育のプロジェクト。医療現場をリアルに再現した場面で繰り返し演習することで実践力を養い、効果的に臨床実習につなげることを目的としている。



プロジェクトメンバー（左から）三浦奈都子教授、三井美波助教、遠藤良仁准教授、及川紳代講師、小嶋美沙子准教授、藤澤由香講師。

「シミュレーション」で学びをつなぎ現場に強い実践スキルを身につける

看護職を目指す学生が、安心かつ効果的に学ぶことができる手法として注目される「シミュレーション教育」。シミュレーター（人形）やVR教材を使い、実際の医療現場を想定した環境でトレーニングを行うもので、失敗を恐れず繰り返し学べ、着実に実践力を身につけることができます。

看護学部では、三浦奈都子教授を中心に10年前からシミュレーション教育を導入。基礎看護学、成人看護学など各領域の授業で取り入れています。その「点と点」をつなぎ、より複合的な学びの場をつくらうと、立ち上げたのがこのプロジェクト。三浦教授はじめ6名の教員を中心に、シミュレーション教育のさらなる可能性を模索しています。

「看護学では、まず知識、次に技術を習得し、それらを統合して実践、応用していくのが学びの基本。しかし、社会の変化や「コロナ禍の影響により病院・施設での実習で経験できることに制限が設けられる場合があります。それを補うためにも、個々で行っているシミュレーション教育を他の科目と連携させ、臨床に近い環境で、繰り返し学ぶ機会をつくれたら」と三浦教授。例えば、基礎看護技術のひとつ「脈や呼吸音の測定」で、「高齢の患者に拒否される」場面を設定。高機能シミュレーターによる現場さながらのシチュエーションで、老年看護学など他領域で学んだ知識も駆使しながら、適切な対応を考え、実践し、繰り返し検証することができます。

「各領域での実践を共有し、学生と教員がともに学び成長できるプロセスが、このプロジェクトのよいところ。1年生向けのプログラムに4年生が指導役で参加するなど、学年を超えた学びの場にもなっていることを実感しています」と三浦教授。現在は実習室で活動していますが、いずれは「シミュレーションセンター」の常設を計画しているそう。「学生がいつでも利用できる、主体的な学び合いの場にしていきたい」と、今後の抱負を語ってくれました。

犯罪心理を「当事者視点」で紐解き再犯防止と社会復帰につなげる

元々、人の心理を描く映画や小説が好きだったという紀司かおり講師。高校時代、アメリカのFBI捜査官の手記を読んだことをきっかけに「犯罪心理学」に興味を持ちます。「学ぶなら本場で」と、高校を卒業後アメリカへ留学。ケンタッキーの大学で心理学を学んだ後、カリフォルニアにある大学院で犯罪学を専攻し、帰国後は心理職として働いていました。

7～8年経った頃、「現場で得た経験則を論理的に紐解きたい」という想いから再び大学院に入り、博士号を取得。その後心理職として現場に戻りましたが、心理学分野で働く人への専門教育の必要性を感知し、大学教員に。現在は、岩手県立大学社会福祉学部の講師として心理学関連の授業を担当しながら、犯罪を繰り返してしまう人の再犯防止や社会復帰についての研究にも取り組んでいます。

「福祉の領域における犯罪心理の研究は、どうしても『支援する側』の視点で行われがちですが、私は『当事者』の視点に興味を持っています」と紀司講師。最近では、刑務所を出所しても万引きを繰り返す人たちを対象にインタビュー調査を実施。「犯罪行為に至る経緯を当事者の語りから紐解いていくと、過去のトラウマや依存といった背景が見えてくる」と言い、それを見つめ直すことで犯罪行為の原因やきっかけを内省し、再犯防止や支援につなげるプログラムも実践しています。

紀司講師の授業のひとつ「司法・犯罪心理学」は、社会福祉学部で取得可能な「公認心理師受験資格」の必須科目。「公認心理師を目指す学生の多くは子どもなどを対象とした支援に関心があり、犯罪者と聞くと、怖い、自分とは関わりがないと感じるかもしれませんが、でも、罪を犯す・犯さないは、実は紙一重。自分が支援に関わった子どもが将来、罪を犯してしまうこともあり得る。そういう自分ごと視点で犯罪心理学を学んでもらえたら」と話します。



アカペラサークル「Jerry Beans」が 県庁ロビーコンサートへ出演

岩手県庁 1 階県民室を会場に、県庁ロビーコンサートが初めて開催され、アカペラサークル「Jerry Beans」のメンバー14人が出演しました。コンサートには50人以上の聴衆が集まり、歌に合わせて手拍子をするなどして学生の発表を盛り上げました。



キッズボランティアサークル「どろんこ隊☆ミライ」に助成金授与

小・中・高校生を対象とした学習室の運営を行っているキッズボランティアサークル「どろんこ隊☆ミライ」が、公益財団法人キリン福祉財団の「キリン・地域のちから応援事業」に採択されました。令和6年5月19日に助成金の贈呈式が行われました。



「平泉ポータブル観光ガイド」を活用したデジタルスタンプラリーを実施

ソフトウェア情報学部のア部昭博教授が、デジタルの活用による平泉観光の価値向上に向けて、平泉町との共同研究を行っています。令和6年度には、地域協働研究の成果である「平泉ポータブル観光ガイド」を活用し、平泉町内7エリアでデジタルスタンプラリーを通年実施しました。実践・実証的な研究の推進による、平泉観光の満足度向上やリピーターの増加が期待されます。



県大さんが新たな浴衣で 最優秀賞を受賞

盛岡の夏を彩る風物詩「盛岡さんさ踊り」に、岩手県立大学チームは「凧」をテーマに参加し、最優秀賞を5年ぶりに受賞しました。開学25周年を記念して作成した浴衣を初披露し、厳しい暑さの中、最後まで元気いっぱい踊り、道主に詰めかけた方々に元気と笑顔を届けました。



令和6年度学長奨励賞授与式を実施

令和7年2月13日、令和6年度学長奨励賞授与式が行われました。研究活動、課外活動、社会活動の分野で活躍された7の個人・団体に学長奨励賞が授与されました。受賞された皆様、おめでとうございます！



三陸ジオパーク推進協議会との連携協定締結

令和7年1月7日、宮古短期大学部と三陸ジオパーク推進協議会との連携協定締結式が執り行われました。この協定は、三陸地域の活性化や防災力向上を目的としており、教育と人材育成を通じて連携を進める内容です。この具体的な取り組みとして、宮古短期大学部では、令和7年度から沿岸の持続可能な地域づくりを学ぶ科目「総合三陸学」を創設します。授業は一般公開され、三陸ジオパーク推進協議会から派遣された講師による講義や、各地でのフィールドワークを実施します。



ソフトウェア情報学研究科 工藤 諒太

情報処理学会第112回モバイルコンピューティングと新社会システム研究会において、奨励発表賞を受賞しました。

また、情報処理学会第86回全国大会において、学生奨励賞を受賞しました。

ソフトウェア情報学研究科 長久保 伊吹

第23回情報科学技術フォーラム (FIT2024) において、FIT奨励賞を受賞しました。

また、PLATEAU IDEA PITCH SENDAI 2024において優秀賞を受賞しました。

ソフトウェア情報学研究科 WNG YIYUN

国際会議 International Conference on Intelligent Science and Sustainable Development (ISASD2024) において、Best Paper Awardを受賞しました。

陸上競技部 坂井 結

第23回全国障害者スポーツ大会「SAGA2024」において、「走幅跳第3位」、「100M男子第4位」に入賞しました。

キッズボランティアサークル どろんこ隊☆ミライ

小中学生の学習支援・居場所支援を目的に「みんなの学習室」等の活動を通じて、地域貢献に寄与しました。

公立大学学生ネットワーク

令和6年度全国公立大学学生大会 (LINKtopos 2024 in Iwate) の運営主体として、関係各所との調整、参加者の管理、大会内容の企画等を行い、開催に尽力しました。

岩手県立大学防災復興支援センター 学生団体FROM

県や市町村からの依頼による防災訓練等への参加や各種イベントの対応、小中学校や高校における防災教育等の活動を通じて、防災・復興人材の育成を図りました。

県大ミーツカンパニー(合同企業等セミナー)を開催

企業等による採用活動の早期化に対応するため、令和6年11月9日・10日に学内合同企業等セミナー「県大ミーツカンパニー」を新たに開催しました。県内外から151の企業等をお招きし、学生は各企業の1分間スピーチを聴いた後、ブースで企業概要や業界動向の説明を受け、将来のキャリアに対する意識を高めるとともに企業や自治体についての理解を深めました。



岩手県立大学SNS公式アカウント

岩手県立大学の公式アカウントでは、大学の最新情報を発信しています。



アンケートご協力をお願い

岩手県立大学広報誌Archへの御意見・御感想や、広報に関する皆様の御意見をお聞かせください。以下のQRコードにアクセスして、アンケートフォームから御回答をお願いします。



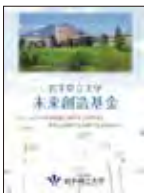
COP開催国駐日大使による 特別講義

令和6年11月6日に「国連気候変動枠組み条約第29回締約国会議 (COP)」の開催国アゼルバイジャンのギュルセル・イスマイルザーデ駐日大使の特別講義が、総合政策学部の蒲敏哉教授の講義「環境と政策」の一環で開催されました。講義に出席した学生は、COP開催国の立ち位置や岩手への影響のほか、アゼルバイジャンの魅力について理解を深めました。



未来創造基金の報告

大学の教育研究活動をさらに充実させる財源として平成28年度に創設した「岩手県立大学未来創造基金」に、令和6年度は2月末現在で約25件5,203,000円の寄付が寄せられました。寄付をお寄せいただいた皆様に改めて感謝申し上げますとともに、岩手の未来づくりに貢献する教育研究活動をさらに広げていけるよう引き続き御支援をよろしくお願いいたします。【基金のお問合せ先】岩手県立大学事務局総務室(管財契約グループ) TEL:019-694-2002 FAX: 019-694-2001【お申込方法】本学ウェブサイト、書面、電話、FAX又は本学所定の振込取扱票でお申し込み・お振込みください。



令和6年度全国公立大学学生大会 (LINKtopos 2024 in IWATE)、令和6年度第1回公立大学学長会議・学長研修会を開催

令和6年10月12日～14日に令和6年度全国公立大学学生大会 (LINKtopos 2024 in IWATE) を開催しました。LINKtoposとは、東日本大震災津波のボランティア活動を機に結成された「公立大学学生ネットワーク」が主催する学生大会です。12回目となる今回は、災害・防災にとどまらず、広く地域活動を行っている学生らが全国から集まり、ワークショップ等を通じて研鑽や交流を図りました。14・15日には、全国の公立大学の学長等が集まる「令和6年度第1回公立大学学長会議・学長研修会」を滝沢キャンパス、アイーナキャンパス等で開催しました。

